

はじめに

歴史都市における地域に根ざした文化遺産は、長い年月をかけて醸成された人々の文化的活動の結晶であり貴重な社会的共通資本です。このかけがえのない文化的価値を損なうことなく、災害の脅威から守り、次世代へ継承することは、現代を生きる私たちの責務です。

歴史都市の有形無形の文化遺産には、自然環境や災害と真摯に向き合い共存するための先人の豊かな知恵や技術、経験が内包されています。歴史都市防災研究所では、こうした先人の知恵を抽出し、コミュニティ全体に根付かせ、未来に受け継がれる減災文化の実現を目指しています。そのために、人文社会と理工学の学問分野の枠を超えて歴史的・文化的・技術的価値の多面的な評価に基づいて、文化遺産防災、あるいは歴史都市防災に関わる研究課題に取り組んでいます。

歴史都市防災研究所は、2003年の歴史都市防災研究センター設立から20年を迎え、文部科学省21世紀COEプログラム、同グローバルCOEプログラム等の外部資金を積極的に獲得しながら、研究活動を行ってきました。ユネスコより設置されたユネスコ・チェアとして文化遺産防災の国際研修を継続的に実施しており、文化遺産防災学の国際的なネットワーク・ハブの役割を当研究所が担っています。さらに、アーカイブ等の情報技術を駆使する本学アート・リサーチセンターとも連携しつつ、文化的で安全な社会の発展に貢献できる方策を国内外に提供する教育研究拠点の形成とともに、国内外の人材と研究プロジェクトが集うプラットフォームの構築も目指しています。

本研究所年報には、研究所メンバーおよび各部会の研究プロジェクトの成果がまとめられています。近年、自然災害の激甚化、多発化を受け、人間の活動が環境へ及ぼす影響への配慮が不可欠になる中、引き続き、新時代に向けた未来志向の技術として文化財防災学の活用を視野に入れた研究を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の五類移行を受け、主要な活動である国際研修やシンポジウム、マップコンテストの対面実施が復活しつつあります。客員協力研究員の先生方や協賛企業様のお力添えをいただきながら、研究者と事務局が力を合わせて、より多くの方々に参加いただける開催形態を確立できました。

研究所としては、これまでに達成した研究成果や研究アプローチをより積極的に、発信し社会貢献へとつなげるフェーズに移行しつつあるといえます。引き続き、地域社会を始めとした産官学との連携や、NPO/NGO、そして国際機関とも連携して、「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する歴史と伝統の研究、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と研究発展を担う若手研究者の輩出に取り組むとともに、当該分野の国際的な中心拠点として、社会貢献へ向けた機能を担える教育研究環境を確立していく所存です。皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

立命館大学 歴史都市防災研究所 所長 吉富 信太

